

つながる ひろがる おりなす  
アートには地域の未来を変える力があります

## AMO2025 開催報告

ARTS MEET OKITAMA 2025 もたくさんの創意溢れる作品と出会うことができました。ご出品いただいた皆様、本当にありがとうございました。

出品数 85 点 (大賞エントリー 45 点、若手アーティスト奨励賞 21 点)  
来場者 1,499 人 来場者の投票総数 763 票

### ○AMO 大賞

まゆ  
「紕う 一未だ霽の中一 Rubbed and weakened cloth -Still in the haze-」  
新野裕美 (得票数 92 票)

### ○若手アーティスト奨励賞

「宙を見上げて」 左右田心 (得票数 155 票)

「じゅんさい沼」 安達立峰 (得票数 94 票)

「誤飲→咀嚼」 加藤悠斗 (得票数 70 票)

\*若手アーティスト奨励賞受賞の3作品は、「ミナミハラアートウォーク 2025」(9月開催)に展示予定です。

◇置賜文化フォーラム おきたま若手アーティストワークショップ  
「あなただけの小さな世界を作ろう！」  
～ミニチュア ガーデンアート～

昨年の若手アーティスト奨励賞受賞の石井さんを講師に迎え、樹脂粘土を使ったミニチュア制作を体験しました。

講師：石井かおり  
参加人数 9組 21名



## AMO2025 ダイジェスト

AMO2025

ゲストトーク



ギャラリートーク

《AMO2024 大賞 八頭こほり展》  
八頭こほりさんには、ギャラリートーク、ゲストトーク、似顔絵制作など、来場者と交流するイベントを積極的に開催していただきました！



《公募展 AMO2025》



# ARTS MEET OKITAMA だより夏号 VOL.10

2025 年 6 月

よねざわ市民ギャラリーと「ARTS MEET OKITAMA」  
の情報をお届けします。

## AMO2025 大賞展へ向けて



米沢在住で、現在は国画家 準会員、  
県美連会員として制作活動を行っている  
新野裕美さん。小学校教諭を退職後  
に国展に初出品し、現在も最前線で活  
躍しています。AMO2025 大賞を受賞  
した「紕(まゆ)う」シリーズ以外に  
も「たんぼぼ」を題材にした作品など、

表現方法を模索していると語ります。そんな新野さんから大賞展に向けて  
のコメントをいただきました！

このたびは AMO 大賞に選んで頂き、御投票くださった皆  
様、審査員の先生方、関係者の皆様へ心より御礼申し上げま  
す。  
昔、たんぼぼの綿毛が風に吹かれて飛んでいるのを見ました。  
ふと地面を見ると、綿毛を飛ばして裸んぼうになった白く丸い  
ものがあります。それが母体に見えて、とても愛しく淋しく思  
えてたんぼぼの絵を描きました。  
今は「紕う」という絵を描いています。布が使い込まれて薄く  
なり、布目がよれて古びることを「紕う」というのだそうです。  
その布に自分を重ね、その時々情景や思いを重ねて描いてい  
ます。  
絵は見る人によって様々な見方ができます。作家の思いとは全  
く違った見方をする方もいらっしゃると思います。私はそれがとても  
面白いと思うのです。見てくださった方々とたくさんお話でき  
るのを楽しみにしております。  
皆様のご来場を心よりお待ちしております。

### 【新野裕美 Profile】

米沢市出身 米沢市在住。山形大学教育学部卒業。  
小学校教諭を退職後、国展に出品  
現在 国画家準会員 県美連会員

## 予告 AMO2026 スケジュール (予定)

受付期間 10月16日(木)～令和8年1月15日(木)

出品票メ切 令和8年2月12日(木)

AMO2026 3月11日(水)～3月21日(土)

受賞式 3月22日(日)

## テーマ部門 「時<sup>とき</sup>」

10回目となる次回は「時(とき)」をテーマとした  
作品を募集します。詳細は、10月上旬にお知らせいた  
します。

開催報告 令和7年4月26日(土)～5月11日(日)

## 山形県ゆかりの院展作家たち

～日本美術院 再興110回展記念展によせて～

日本美術院の流れを山形県ゆかりの物故作家から現在活躍中の作家まで幅広く紹介しました。来場された方々はその大画面と静謐な作品世界を堪能していました。



【アンケートより】

- ・遠方のギャラリーにはなかなか行けないので、こんなに身近に有名な作家の作品を鑑賞出来てありがとうございます。(図書館には足を運ぶので、そこに案内があれば、分かりやすくていいかなと思います。)
- ・すばらしい作品を手取るように身近に見れてすばしかった、感動です。また米沢の博物館所有のものも多く、米沢市民として誇りに思いこれからも大切にしていきたいと思います。

OPEN GALLERY

ナゼBA

Yonezawa Citizens Gallery X Uesugi Museum Art Collection



開催中 ～7月28日(月)

### 「郷土ゆかりの作家たち(昭和編)」

窪島政男、酒井羽雪、本間国生、滑川聖二らの作品を昭和初期の米沢の美術グループの活動とともに紹介します。

次回予告 7月30日(水)～10月22日(水)

### 「米沢と国画会ゆかりの作家」

自主事業「国画会100回記念五部門合同の企画事業」の連携企画として米沢市上杉博物館所蔵の国画会ゆかりの郷土作家 椿貞雄、土田文雄(絵画)、桜井祐一、鈴木実(彫刻)らの作品を展示します。

ギャラリーに常設している桜井祐一の「五月の女」(絶作)は第55回国展に出品された作品です。



＜よねざわ市民ギャラリー夏の自主事業＞

国画会100回記念  
五部門合同の企画事業

## 作家の新たな出会い 令和7年8月2日(土)～8月24日(日)

～未来へのアートシーンを発信する多彩な作品を一堂に～

1918(大正7)年に結成された美術団体「国画創作協会」を前身とする国画会は、絵画・彫刻・版画・工芸・写真の5部による美術団体です。その展覧会「国展」は、現在99回を数え、令和8年には記念すべき100回を迎えます。米沢、そして山形県出身の多くの作家とゆかりの深い国画会の現役出品作家59名の作品を展示します。

みどころ

1

国画会の最前線で活躍する作家の作品を一望

2

「創作の自由を尊重する」の理想と目標を受け継ぐ、5部門の作品がギャラリーで出会う

3

市内、県内からの国展出品作家の作品も紹介

4

出品作家によるリレートーク・ワークショップも



清水恵子「疾走するミウーブルー」  
キャンバス・パネル・アクリル・ジェッソン等  
第99回国展 準会員佳作賞・新会員推挙



国展とその歴史についてはこちら

主催：よねざわ市民ギャラリー・国画会

協力：国画会山形支部

後援：(株)JNCV ニューメディア・山形新聞・山形放送、特定非営利活動法人米沢市芸術文化協会

市民ギャラリーについて

当ギャラリーは、市民の皆様の美術作品の発表及び鑑賞、市民文化の交流の場として利用しやすい施設を目指しています。芸術文化活動の拠点として、また、様々な芸術文化に親しめるギャラリーを皆様と共に育んで参ります。

自主事業では、4つのコンセプトを念頭にオープンギャラリーの展示、企画展等を行っています。

- 米沢市上杉博物館と連携した展示
- 米沢市ゆかりの作家の作品展示
- 魅力ある企画展示
- 市民ギャラリーの利用促進や、市民の皆様の芸術文化に寄与する展示



▲ギャラリー HP QR



▲ギャラリー公式 X QR

ARTS  
MEET  
OKITAMA  
だより夏号 VOL.10  
2025年6月

発行：よねざわ市民ギャラリー (公益財団法人米沢市上杉文化振興財団)

〒992-0045 米沢市中央 1-10-6 TEL 0238-22-6400 FAX 0238-26-0036

問合せ：伝国の杜 米沢市上杉博物館 TEL 0238-26-8001 FAX 0238-26-2660